



## JAMCA ニュース

No.84

2015 年 1 月 1 日

発行  
協会事務局全国自動車大学校・整備専門学校協会  
〒160-0015 東京都新宿区大塚町 31

ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066

編集事務局

〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3

☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

# 「時代をリードする整備士を育てる」

日産・自動車大学校 学長 今西 朗夫  
全国自動車大学校・整備専門学校協会 理事

新年あけましておめでとうございます。

新年にあたり自動車業界の将来を展望したいと思います。

全地球的な人口増加や急激な経済発展は、あらゆる面において多岐にわたり地球環境に依存しています。永い地球の歴史の中で近年の人類の変化は地球環境そのものに大きな影響を与えています。

経済成長と地球環境保全を両立して永く人類が発展していくために、自動車業界は気候変動やエネルギー問題への対応、化学物質管理、廃棄物削減、リサイクル対応、大気・水・生物多様性の保全、鉱物資源の効率的な利用といった持続可能性に向け多くの課題に取り組む、化石燃料依存脱却に向け構造変革の推進が必須となります。

我々自動車業界にたずさわる者として、自らの活動が直接・間接的に環境に及ぼす影響を理解し、求められる技術やプロセス、社会との関係を通じ最小化することを考えなければなりません。また我々が送り出す自動車整備士の方々もその視点を十分理解し、自ら実践する人間である必要があります。一方、自動車そのものもエネルギーや資源の使用効率を高め多様性や循環を促進する革新的な商品が世に送り出されていくでしょう。

気候変動条約の前提に基づくと、



気候システムを安定化させるには地球の平均気温の上昇を $2^{\circ}\text{C}$ 以内に抑える必要があります。そのためにクルマの $\text{CO}_2$ 排出量を2050年時点の新車で2000年比90%削減する必要があると試算されています。クルマが永く人類に貢献する道具とするためには90%削減達成が必要となり、短期的にはHEVの活用等による内燃機関の劇的な向上、中長期的には電気自動車(EV)や燃料電池車(FCEV)といった電動車両への代替が必須となります。それらを考えるとクルマ自身が技術的材質的にも劇的な変化を迎えるでしょう。

1908年に米国でT型フォードの発売以来、クルマが一般の交通手段として普及し始め、この約百年で急速に保有台数が世界中で伸び、既に四輪車で11億台を超えています。クルマ自身はモデルチェンジの度に技術が向上していますが、1950

年代の米国車は既にV8エンジン、オートマ、エアコン、カーステレオ、パワーウィンドー等、現在の装備に近いものが装着され機能的には現代のものと同じく変わりません。一方、今後40～50年で消費エネルギーは10分の一にする必要があり、そのためには動力源やクルマの構造や材料も大幅な変化が強いられます。その観点で現在がまさにクルマの転換期の真っ只中にあり、過去50年のクルマの進化に比べ今後50年は大幅に変化していくと考えられます。

我々がいま世に送り出している新しい自動車整備士たちが将来にわたって予想される劇的な技術の変化に先頭に立っていけるように教育をしていく必要があると考えます。

我々自動車整備士の学校として、自らも時代の変化、技術の変化に常に関心を持ち、学生達に時代をリードしてもらえるようにしたいと思います。

## CONTENTS

- 2 面 高圧水電解システムを採用した「パッケージ型」スマート水素ステーション
- 3 面 我が校自慢
- 4 面・5 面 ~東京オートサロン主催者側から見る~ 若者の自動車への意識
- 6 面 協会トピックス
- 7 面 活躍!! 卒業生・地区通信
- 8 面 私の教材活用・お知らせ・編集後記